

(議長)

休憩前に引き続き、会議を再開致します。

次に、まちづくり推進課所管、予算並びに関連議案について、一括補足説明を求めます。

「まちづくり推進課長」。

「まちづくり推進課長」(補足説明)

それでは私の方から、令和2年度のまちづくり推進課所管の予算について、ご説明致します。予算書を活用せずですね、こちらの各会計予算資料の方でご説明を致したいと思っております。それと併せて、今般の説明につきましては、新たな事業、あるいは、取り組みが少し内容が変わった事業、あと本定例会で議決をお願いしている案件、この点に絞ってご説明をさせて頂きたいと思っております。

それでは資料の9頁をお開き願います。資料の9頁、企画費中、まちづくり推進課所管の事業はNo.32番から42番まででございます。この中で変わったところを説明します。初めにNo.33番の北の江の島構想、魅力、賑わい、創出モデル事業であります。昨年度同様にマリンスポーツの振興や寺子屋売店の運営を行う他、本年度新たな事業として北の江の島構想VR作成コンテンツ委託事業を実施して参ります。本定例会の資料No.3をちょっと見て頂きたいと思っております。本日、机上配布させて頂いたものでございます。こういった資料でございます。はい。説明させて頂きます。具体的な内容についてですが、北の江の島構想を構想段階から、いよいよ、実行段階へと進めるに当たって、目的に応じた空間情報の可視化とシステムの構築を行います。議論の過程における様々な意見などを組み入れた空間の活用方策について、瞬時に画面上で切り替えしたり、あるいは、立体的に計画空間を動き回ったり、更には建物の中の様子や外構、植栽、ベンチの置き場所等などまで、時々の課題に合わせたデータシステムを構築するものであります。事業のコンセプトは資料に記載のとおり、3D空間の中で計画を検討します。そして、プレゼンテーションが可能な事業推進ツールの作成を目的としております。本年度の委託事業の中身でございますが、具体的には国土地理院の地形データを基に、検討エリアの地盤データを作成します。

2つ目。南埠頭周辺一帯の施設の配置や、ボリューム感などを瞬時に表現できる3Dデータを作成して参ります。また、マリーナ側緑地公園や、交差点改良などのイメージ感を表現する将来イメージ図を作成して参ります。

最後に、このようなレイアウトの変更などについて、職員がパソコンで操作可能なアプリケーションの構築を主な事業内容としております。こういったものを作り上げることによって、北の江の島構想がいよいよ、構想から基本計画に向かう一助として行きたいと、我々、考えております。北の江の島構想、魅力、賑わい創出モデル事業全体で589万のうち、300万をこのVR作成コンテンツの方に、もって行きたいと考えております。財源確保対策として、道の地域づくり総合交付金の

活用を予定しております。

次に、No.36番のまちづくり推進交付金です。定例会資料の2番、15頁をお開き願います。定例会資料の2番の15頁、資料No.は37番でございます。新たなまちづくり推進交付金の概要について、を基にご説明致します。制度の趣旨でございますが、これまでのまちづくり推進交付金は、総合戦略をけん引するものとして、制度設計されておりましたが、先程申し上げましたとおり、今般の新たなまちづくり推進交付金は、第6次の総合計画や第2期の総合戦略を形にするため、総合計画の基本構想の中のあるまちづくりの目指す姿のキーワードをベースに、皆で作る自分達ごとのまちづくりをコンセプトに据え、町民や団体などの多様な取り組みを、取り組みや、活動を支援し、しいてはそれぞれが誇りをもってまちづくりに参画しているといった、いわゆるシビックプライドの醸成に繋げて行きたいと考えております。制度のポイントですが、これまで実施して来た若者交流促進事業、美しい村活動推進事業、イベントなどに活用されてきた一般事業を、様々な町民や団体が活躍するシーンを創出する地域交流推進紡ぐ事業、を新たに創設致しました。また、地域の潜在的な支援をふるさと納税返礼品に結び付けるべく、ふるさと納税返礼品拡大支援事業を新たに実施して参ります。一方で、ハード系事業につきましては、宿泊施設整備促進事業、産業基盤強化施設整備促進事業を廃止し、これまで起業創業に限り活用出来た空き店舗等再生促進事業をコミュニティー活動も活用出来るようにしたと、いうことでございます。こういった中で、多くの町民や団体の皆さんが今度は、活躍出来るステージを作って参りたいと考えております。予算額は、1千万円を計上しているところです。

最後になります。本定例会で皆さんに議案第15号で、6次計の基本構想の議決をお願いしております。定例会資料としては、133頁からなる対策となる計画の本体がありますが、1枚ものの概要版も提出してございますので、定例会資料の16番でございます。第6次江差町総合計画（概要版）、17頁にあります。こちらで若干説明をして行きたいと思っております。資料の17頁でございます。初めに、これまでの策定過程ですが、昨年7月から本年2月までの間に、5回の審議会の開催をし、町民ワークショップ開催、更には産業別の懇談会を開催して参りました。幅広く各層の意見を拾い上げ、去る2月21日の審議会終了後、審議会の会長から町長へ答申を行っております。またこの間、議員の皆様にも2回の特別委員会を通じて、基本構想の作りや、他の計画との整合性などについてご説明をして来たところであり、詳細な計画の説明は割愛させていただきますが、基本構想のポイントとしては、今般の6次計画につきましては、第2期の総合戦略も併せて策定されているということ。計画の期間は、総合計画が令和2年度から11年度までの10年間、総合戦略については、令和2年度から6年度までの5年間としております。また、策定に当たって江差町の現状を概況、人口世帯、終了状況、産業といった分野において、国勢調査や各センサスなどを活用しながら、分析しております。本町の特性と主要課題として、人口減少や担い手不足、賑わいある市街地の形成、公共交

通の利便性の向上、インフラ整備、財政基盤の脆弱化など、6つの視点を上げております。基本構想におけるまちづくりの目標であります。誇りある暮らしを未来へ紡ぎ、皆で作る自分たちごとのまちづくりとし、総合計画全体の目指す町の姿を記しています。向こう10年間のまちづくりの目標は、資料にあるとおり、産業の振興や繋がりのある地域、人づくり、安心して暮らせる生活環境や、町民とのパートナーシップによる行政運営など4つの指標が抱えられております。それらを具現化する政策の体系が、図に示す体系となっております。また、今般の総合計画につきましても、個別計画との整合性を図った他、2015年の国連サミットで採択された2030年を期限とする、SDGsとの調和をとった計画策定に努めたところでもあります。今後は、町長の執行方針にも記載してありまして、これらの計画の具現化に向け、しっかりと町内で議論を重ね、確実な施策の実施に結び付けて参りたいと考えております。

以上、まちづくり推進課所管の令和2年度予算並びに本定例会に提案している議案に説明を終わらせて頂きます。宜しくお願い致します。

(議長)

説明が終わりましたので、一括質疑を受けます。

質疑希望ありませんか。

(議長)

「小野寺議員」。

「小野寺議員」

はい。議長。

2つお聞きします。最初の方で説明ありました、北の江の島構想VR作成コンテンツ委託事業の件について、お聞きします。資料で説明頂きました。ちょっと、分からないというか、北の江の島構想そのものはまだ、今後、目鼻付けると、いうことになります。ただ、このVRで先々のことを、可視化と言いますか、VRを使って将来的なことということでもあります。とは言っても、今これから北の江の島構想をどうするかということをもっと、議会も質疑もさせて頂きながら、進めて行くことになるんですが、この将来イメージの作成、マリーナ側緑地公園や、交差点改良等のイメージ感は、具体的にどっから引っ張って作ろうとしているんでしょうか。当然、北の江の島構想の論議がまったくなく、ただ、VRで終わるのであれば、どういうイメージを作って、やっても構わないんですが、今、正しく、例えば、交差点の改良の問題で言うと、委員会で、今特別委員会、もしくは、その前の総務常任委員会でもいろんな論議して、特に当時の委員長である、室井議員からもいろんな、議員としての発案と言いますか。いろんな論議されている中で、どういうイメージをまず、この事業の中でやろうとしているのか。場合によっては、一定

のイメージ、もう作られているんですか。いずれにしても、それ、ちょっと教えて頂きたいと思います。

それから、2点目。総合計画なんですけど、中身やってると、日暮れちゃうから、1点だけ。人口の問題なんです。前に、総合計画等特別委員会で、少し、質疑させて頂きましたが、どういう計画を作るにせよ、5年後、10年後、20年後、ま、40年ったら、なかなか、あれですけども、少なくとも、どういう人口を目指すか。それによって計画を作っていくと。ましてや、今、他の計画との整合性と言いますか、であれば、なおさら。前も言いましたけれど、社人研の本来だったら、これぐらい人口減るけれども、頑張っただけでそこまで減らさない。それが総人口の目標だという話、しました。5年後で言うと、総人研の推計よりは、800人多い。10年後ですと、千人多い。それだけ努力する。頑張るといえることですね。その努力目標というのは、どれだけのものが、担保、担保というか、総合戦略だけだと言えたら、まだいいですよ。国のお金をとるために、そういう計画作るというのでもないわけじゃない。だけど、今回、総合計画とドッキングしてしまった。他の計画と整合性をもつたら、介護保険の計画とか、子育て計画だとかも、全部、これで推計していくんですか。そんな無茶なこと実際無理だと思うんですよ。だから、この総人口のおさえ方というのは、どういうふうに考えてたらいのか。2重の人口を作るといふことなのか。改めて、ちょっと、本会議でお聞きしたいと思います。2つです。

(議長)

「まちづくり推進課長」。

「まちづくり推進課長」

まず、1点目のですね、VR、どういうイメージで進めて行くかということですが、まずは、議員の皆様にも、これまで、北の江の島構想の大きなゾーニングの考え方につきましては、ご説明してきたと思います。1つは、南埠頭の活用を考えましょうということ。あと、交通のハブ、あるいは物流の拠点、交流の拠点、こういったコンセプトの元に交差点の改良も少し、検討しなければならないという、あるいは、開発さんの方に要請をすると、いう事項になっていたと思います。今回のVRは、南埠頭全体のまず、16,000㎡あるそうです。16,000㎡の中の空間の活用を、どういうレイアウトにするのか、あるいは、こういった高さになると、こういう視点で鷗島、見えなくなりますよとか、いろんな使い方があるという事です。それを、これまで、コンサルにお願いすると紙ベースで出てくるまでに、3日も4日も過かったということです。1枚に対しても、相当な費用が掛かったということです。それが、今回は、皆さんの意見を聞きながら、瞬時にいろんなことがやれるということが、1つあります。それともう1つでございます。交差点改良のイメージ、どのように思っているかということですが、まさしく、様々な角

度の、R解消なのか、あるいは、信号機を付けたらどうなるのか、あるいは、今ある建物、なくなったらどういうビューになるのか、そういったものも今回のVRでは、臨場感をもったものに出れるということです。それをやるために、国土地理院のデータを取り込んで、高低差も全て出すということです。それによって立体的に皆さんにいろんな、真意をお見せすることが出来る。あるいは、検討の1つのもになるというような、ことを想定して、今回、やって行きたいと思っております。

それと、総合計画の人口ビジョンの関係でございます。特別委員会の方でも、小野寺議員の方からいろいろとお話がありました。本年度、2020年度、実は、ご承知のとおり、国勢調査が実施されます。国勢調査の状況を踏まえながらですね、もし、社人研、あるいは、我々の今回の人口ビジョンと大きく乖離があるのであれば、そこは適宜、我々も修正も考えていかなければならないんだろうなど、思っております。ただ、この間、策定審議会の中でも議論されましたが、現段階で社人研とあるいは、直近の住民記録台帳、そして、尚且つ、この中で65歳未満の生産年齢人口が、若干、社人研よりも増えてますよといった、この5年間の処方箋が少し、利いているといったことを踏まえながらですね、平成27年に策定した人口ビジョンを踏襲して行きましょうというのが、策定審議会の議論でした。決してこれをコンクリートしてですね、今後10年間進むということではありません。適宜、状況が変われば、それはそれに合わせながらですね、皆さんと議論して、変えて行くという柔軟な対応はして行きたいと思っておりますので、ご理解願いたいと思っております。

「小野寺議員」

議長。

(議長)

「小野寺議員」。

「小野寺議員」

見直して行くのは分かったんですが、いずれにしても、いずれにしてもですよ、総人口の目標、江差町として、こうやって人口を増やして行くと、Uターンだとか、Jターン、Iターンなども含めて、毎年、30人、30人で、60人ですかね。毎年60人増やして行くので、社人研でいう人口よりは、増やすんだと。っていう総人口については、これは、江差町として諸計画の共通目標として行くということですか。そこをお聞きしたいんですよ。というのは、目の前に次の計画作んなきゃなんない。さっき言った介護保険事業計画もそうですね。あれは、もう、厳密な計画、策定しなきゃなんないんですよ。いやいや、人口を増やすからその人口を増やすということで、介護保険事業計画、作るんですか。到底、私、そう思えない。子育て計画だって、そうですね。だから、そこは、総合計画で出す以上は、しっかりとした、ましてや、Uターン、Jターン、Iターンで、率直に言って、こ

れだけで人口増える事は、なかなか、厳しい。と書きぶりが違うんだらいいんだけど、書きぶりは、それで人口を増やすんですね、これね。この書きぶりは。だから、そこはね、計画だからいいんだではなくて、いろんなものに全部関わってくるという事も含めて、私としては、ちょっと率直に、お聞きしたとこなんです。そこで、もし、ちょっと何かあれば、また。

(議長)

「まちづくり推進課長」。

「まちづくり推進課長」

総合計画の中に、記されている人口ビジョンにつきましては、あくまでも、総合戦略人口ビジョン、一体となったものでございます。これは、地方創生というキーワードの中で、策定されるものだということです。我々が一番、この人口ビジョンの中で、注視したのは、2060年ですか、東京が、この国が、高齢化率39.9以内に収めましょうと、いう数字があります。そこに、江差町も並べることによって、江差町も今後も、持続できる街になるということを目指すというのが、人口ビジョンの一番の目的であります。手段については、確かに議員おっしゃるとおり、UIJターンで、毎年、そういった数を増やすというは、少し無理があるのかも知れませんが、あえて地方創生総合戦略という名の元に、こういう挑戦的な矢を打って行くというのが、今回の重点施策の考え方でございますので、ご理解願います。

それと、各これから、介護保険の計画、なども始まりますが、ベースにつきましては、おそらく計画の直近の数字を8期の介護保険計画では、活用して行くんだらうなど、考えております。あくまでも、希望観測的な数値をですね、使って、計画というのは立てられないと思いますので、そこは、所管課ともしっかりと議論をしてですね、適正な数字で計画を立てるように求めて行きたいと思います。宜しくお願いします。

(議長)

いいですね。

(議長)

はい。他に質疑希望ありませんので、まちづくり推進課所管予算並びに関連議案についての質疑を終了致しました。

説明員入れ替えのため、暫時休憩致します。